

石仏調査ニュース

# ちがさきの石仏

第 1 号

発行 茅ヶ崎市文化資料館  
(市教育委員会)  
編集協力 文化資料館と活動する会  
(民俗行事部会)

連絡先 茅ヶ崎市文化資料館  
茅ヶ崎市中海岸2-2-18  
☎0467-85-1733



## 茅ヶ崎の石仏調査はじまる

平成八年十一月四日に第一回の石仏調査をはじめ、その後、月一回(原則第三金曜日)の調査を重ね、九回を数えます。

調査の報告を兼ねて、ニュース紙のようなものを発行し、調査をより楽しいものにしたという願いをこめて、ささやかですが本誌「ちがさきの石仏」を刊行いたします。よろしく愛読のほどをお願いいたします。

市内の石仏について、データが集大成されたのは、昭和四十四年、茅ヶ崎市教育委員会が刊行しました「茅ヶ崎市文化財資料集」第五集が最初のようにです。これには庚申塔六二基、地藏菩薩三五基、道祖神三七基が一覧表で掲載されています。

その後、

昭和五十年 資料館叢書一「茅ヶ崎の道祖神」(茅ヶ崎市文化資料館編)

同 五十一年 「茅ヶ崎の道祖神」(樋田豊 宏著)

同 五十二年 資料館叢書「茅ヶ崎の庚申塔」(茅ヶ崎市文化資料館編)

などが刊行されました。

さらに、昭和五十五年には茅ヶ崎市史3『考古・民俗編』が刊行され、その中にいろいろの石仏五二一基がリストアップされ、市内全体の概要をつかむことができるようになりました。

また、平成九年には郷土史研究グループ「ピーデ・クルーボ」の研究が『小出の石仏』として本市教育委員会から刊行されました。

従来、市内の石仏の概要をつかむには、前記、茅ヶ崎市史3『考古・民俗編』の一覧表が便利だったのですが、刊行以来一七年が経過し、石仏が置かれている場所の状況変化や、新造、新発見などもあり、再調査が必要となりました。そこで、文化資料館と市民の有志によって、市内の石仏を総合的に再調査しようとして、この調査をはじめました。

なお、この事業は茅ヶ崎市文化資料館(茅ヶ崎市教育委員会)が中心となり、市民有志からなる「文化資料館と活動する会」(担当 民俗行事部会)との共催事業とし、一般市

民の参加をつのりながら進めることとします。

## 石仏調査の方針

(一)

調査の手順については、必要が感じられたつど検討することとし、平成九年六月二十六日(木)、文化資料館で第一回目の調査結果の整理を行い、次の事柄を打ち合せました。出席者は市民参加者四名と社会教育課職員二名(平野文明・小池吉徳)でした。

○茅ヶ崎市史3巻に掲載されている石仏の確認調査とする。

○市史3巻掲載のリストに加えて鳥居、狛犬、手洗石、石灯籠、奉納塔(寄進塔)、畜霊碑、不動尊、巳待塔、風神なども対象とする。

なお、対象としないものは記念碑、五輪塔、宝篋印塔、板碑、墓地内の個人の供養碑、玉垣などとする。(墓地の中のものについては基本的には対象としないが、集団で建てた供養塔は扱う。)

○新しく建立されたものであっても対象とする。

○調査に関わるニュース紙を不定期に発行することとし、その名称は石仏新聞「ちがさきの石仏」とする。

その他、調査に当たっての留意点として、次のようなことが話題となりました。

○スケッチの仕方、寸法の当り方などを統一

- したい。雛形を作ったほうが分りやすい。
- 所在地名の記入にあたって、通称となっている地名も記入しておきたい。
- 六地藏のように同じ場所に複数がある場合、それぞれの位置関係が分るように記録したい。

- 所在地は地図でも表しておきたい。
- 石仏は移動している場合があるので、地元からの聞き取りも必要である。
- 調査は長期化するので、途中の経過報告を行った方がよい。

- 調査と同時に調査カードも増えるので、その整理方法も検討したい。
- 整理番号が必要である。
- 銘文の文字を写す場合は彫ってあるように写す。
- 市外からもたらされたものの扱いは？

(一)

同年 九月二十四日(水) 於福祉会館 出席者一名

検討事項

- 石仏の名称、種類分類、配列について
- 石仏の形態分類について(参考とした出典を明記して例を集める。)
- 調査カードの記入例について
- 石仏新聞について
- 石仏講演会について(十二月六日 松村雄介氏)

(三)

同年 十一月二十七日(木) 於文化資料館

出席者九名  
検討事項

- 調査整理日の作業内容(調査カードの仕上げを行う)
- 石仏新聞について(十二月六日に第一号を発行する)
- 石仏講演会について
- 調査カードの記入例
- 分類について
- コンピュータ処理について

今後の予定

☆現地調査

一月十六日(金) 下町屋 梅雲寺境内

二月二十日(金) 場所未定

三月二十日(金) 場所未定

(原則として毎月第三金曜日です。雨天のときは、文化資料館で調査結果の整理をします。)

☆調査結果の整理作業

二月二十六日(木) 場所 文化資料館

石仏調査は、興味のある方でしたらどなたでも参加できます。

ご希望の方は、茅ヶ崎市文化資料館までご連絡ください。

☎〇四六七七八五一一七三三(月祝祭日休)

寄稿・投稿・会員通信

金神・風神

塩原富男

南湖四丁目の八雲神社の境内にある石仏群のなかに、古い石臼を台座に高さ五四センチの自然石に「金神 風神両社/昭和九年四月祭ル」と刻まれた珍しい碑があります。

この碑は、以前ここから南へ一五〇メートルほど先、伴田の坂をのぼった辻の角のところにあつたそうですが、昭和五十年代のはじめころ、ここに移されたといえます。現在は浜見平団地から海岸へぬける都市計画市道の予定線になっていきます。(五月十六日調査)

この碑は地元の古老の話によりますと、麻疹(はしか)の神さまとして信仰されていたようです。(『南湖郷土誌』ほか)

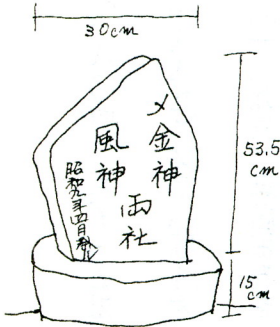
麻疹によく似た「みっかばしか」のことを風疹というので、これは「風神」から連想したのではないのでしょうか。庶民の信仰のありかたの一つをみるおもしろいものです。

「風神」は雷神と対でよばれることが多く、仏教経典による解説では天部に属する護法神で、一般には「風よけ」「雷よけ」の神さまとされています。

「メ金神」、これはたぶん「しめこんじん」とよませるのだと思いますが、神さまの性格がよく解りません。

金神(こんじん)という神さまがいます。これは、陰陽師の祭る神さまで、陰陽五行説(自然の構成要素を木火土金水とみる観念)による金の神格化されたものといえます。

暦の本では恵方とされる歳徳神の正反対の方位に在る神で、廻り金神(巡り金神とも)といつて四季により位置を替えて遊行するといわれ、この方位にむかって土木・家造り・移転・旅立ち・嫁とり・伐木などをすると祟りがあると説いています。この金神が分化して大金神、姫金神の二神が生れ、廻り金神の方位が年ごとに干支のうちの干と関連するのにたいし、大金神・姫金神は支によって定め、たがいに向き合っているといえます。大金神は大凶神、姫金神はそれほどでもないとか。(『暦の百科事典』『日本石仏図展』ほか)  
メ金神は、この姫金神の転化と考えてみたのですが、無理があるようで、それよりも禁忌とされる金神を封じ込めるという願望が込められているという説があります。いづれにしても、建立者が不明でその意図がよく解りません。ご教示いただければありがたく思います。



調査済み石仏一覧

今までに調査した石仏を、紙面の許す限り紹介します。  
種類・建立時期・像容などの順に記しました。

第一回 平成八年十一月四日(月)

○柳島一三 善福寺境内

地藏菩薩 文久元年(一八四二) 丸彫半跏像

地藏菩薩 昭和三年(一九二八) 線彫立像・文字「子育地藏尊」

六地藏 享保元年(一七一六) 丸彫立像

弘法供養塔 文政一〇年(一八二七) 文字「南無大師遍照金剛」

弘法供養塔 無 丸彫坐像

弘法供養塔 無 丸彫坐像

護摩供養 文政一三年(一八三〇) 文字「八千枚護摩供養塔」

阿弥陀如来 承応三年(一六五四) 光背型浮彫立像

第二回 平成八年十一月三十日(土)

○柳島二一三一〇 八幡宮境内

庚申塔 享保一八年(一七三三) 文字「庚申供養」・三猿

庚申塔 無 光背型浮彫青面金剛立像・三猿

道祖神 文化三年(一八〇六) 浮彫双体立像

道祖神 昭和六〇年(一九八五) 浮彫双体立像

道了大薩埵 大正一三年(一九二四) 文字

「道了大薩埵」

石燈籠奉納塔一对 元禄一五年(一七〇二) 角柱型文字「奉納御寶前石燈籠」

不詳 無 石祠型内容不詳

不詳 無 石祠型内容不詳

○同 二一四一七 路傍

観音菩薩 弘化三年(一八四六) 角柱文字

第三回 平成九年二月二十一日(金)

○柳島海岸三一四〇 厳島神社境内

庚申塔 天保 八年(一八三七) 文字「猿田彦太神」

庚申塔 不詳 浮彫青面金剛立像・三猿

道祖神 大正一三年(一九二四) 文字「道祖神」

三大明神 明治三一年(一八九八) 文字「白龍・川崎・青龍大明神」

手洗石 寛政一二年(一八〇〇)

○柳島海岸一五八八 大貫釣具店東側

八大龍王 明治三四年(一九〇一) 石祠型

○柳島一七八 路傍

観音菩薩 無 光背型浮彫立像

観音菩薩 無 光背型浮彫立像

○柳島海岸一五九二 キャンプ場入口歩道橋下

如意輪観音菩薩 無 光背型浮彫

○柳島二一七 共同墓地

供養塔 享和三年(一八〇三) 再建昭和一〇年(一九三五) 聖観音菩薩丸彫立像

第四回 平成九年三月二十一日(金)

○松尾三 神明神社境内

庚申塔 嘉永 六年(一八五三) 文字「庚申

塔

道祖神 享和四年(一八〇四)文字「道祖神」

厄神 明治二年(一八八九)文字「厄神大神」

手洗石 明治二六年(一八九三)鳥居根巻を再使用したもの

○松尾三一二一 善性寺境内

庚申塔 延享三年(一七四六)青面金剛立像  
六地藏(一)元文二年(一七三七)丸彫立像  
(二)元文二年(一七三七)丸彫立像  
(三)文三年(一七三八)丸彫立像  
(四)不詳 丸彫立像  
(五)不詳 丸彫立像  
(六)不詳 丸彫立像

出羽三山塔 文化一四年(一八一七)文字  
「湯殿山・月山・羽黒山供養塔」

弘法供養塔 無 丸彫坐像

○松尾一二 共同墓地内

念仏供養塔 文化一四年(一八一七)文字  
「奉書写念仏一万遍無(縁)法界供養塔」

○南湖二一九一三四 西運寺境内

弘法供養塔 無 丸彫坐像

南郷力丸供養塔

(一)大正七年(一九一八)文字「南無妙法蓮華経南湖力丸霊」  
(二)不詳 丸彫立像(像容不詳)

第五回 平成九年四月十八日(金)

○南湖二一九一三四 西運寺境内

庚申塔台座 無 浮彫三猿像  
念仏供養塔 明和二年(一七六五)文字「南

無阿弥陀仏供養書写八万四千幅

念仏供養塔 宝永七年(一七二〇)文字「南無阿弥陀仏」

念仏供養塔 文政三年(一八二〇)光背型浮彫聖観音菩薩立像

念仏供養塔 昭和三五年(一九六〇)文字「南無阿弥陀仏」

○南湖三一五一一四 竹之内氏宅東南角

庚申塔 寛政七年(一七九五)文字「庚申塔」・三猿

○南湖二一六一一五 池田氏宅

庚申塔 無 光背型浮彫帝釈天立像・文字「庚申塔」

庚申塔 宝曆九年(一七五九)青面金剛立像  
三猿

○南湖二一九 御霊神社境内

念仏供養塔 明暦元年(一六五五)文字「南無阿弥陀仏」

第六回 平成九年五月十六日(金)

○南湖五一五一 住吉神社境内

道祖神 嘉永六年(一八五三)駒形浮彫双体立像

手洗石 明治二七年(一八九四)嘉永の道祖神の前にある

八大龍王 無 石祠型  
○同 四一二九八八 漁港入口

八大龍王 大正五年(一九一七)文字「八大龍王」  
八大龍王 不詳(慶応?) 角柱型文字「八大龍王神」  
○中海岸三一九 市営プール東側

八大龍王 明治三九年(一九〇六)文字「八大龍王神」

○南湖四一四一二九 八雲神社境内

道祖神 嘉永四年(一八五二)光背型双体立像

道祖神 不詳 光背型单身立像  
○金神・風神塔 昭和九年(一九三四)文字「金神 風神 両社」

寄進塔 無 文字「金參百圓 二百圓」

寄進塔 無 文字「金三百圓」

寄進塔 無 角柱型文字「金壹百圓」  
寄進塔 昭和一六年(一九四一)文字「金壹千五百圓也」

手洗石 明治三四年(一九〇一)自然石文字「奉納」

線香立 明治二七年(一八九四)文字「奉納」

狛犬 昭和五年(一九三〇)

職竿石 明治三九年(一九〇六)  
不詳 無 自然石文字「氏子中」



☆本誌は再生紙を使っています。